

# VI 沿岸部などへの 後方支援

計りしれない規模の巨大津波で被災した、沿岸部に後方支援を。今、平成20年岩手・宮城内陸地震の支援への、恩返しするとき。



▲南三陸町からの避難者を迎え入れました(一迫老人福祉センター)



▲自衛隊ヘリによる石巻市からの患者緊急輸送(館館高等学校校庭)

市では、平成20年岩手・宮城内陸地震の際に受けた多大な支援への恩返しのため、関係機関の協力のもと、いち早く「栗原市被災地支援プロジェクト本部」を立ち上げました。このプロジェクトでは、県内の沿岸部の自治体、特に、津波によって行政機能がまひ状態になった南三陸町に対し、全面的な支援活動を行いました。

支援の主な内容は、職員派遣や物資支援、医療支援、避難所の提供などでした。  
(栗原市被災地支援プロジェクト関係団体は資料編に掲載しています)

## 1 職員派遣

仮庁舎の建設や電算システムの復旧、給水、介護認定審査会業務など、行政機能の復旧にかかる人的支援を行いました。

## 2 物資支援

飲料水や毛布、食料品、日常生活用品などを提供しました。

また、南三陸町で使用するために市の公用車を貸し出しました。

## 3 医療支援

市医師会や、関係機関の協力をいただき、沿岸被災地から市内の避難所へ避難された方々に対し、健康相談、小児科健康相談、エコノミークラス症候群の予防検査、「心のケアチーム」によるメンタルケアなどを行いました。

また、栗原中央病院などの

市立3病院では、沿岸被災地などの病院からの要請を受け、患者の受け入れを行いました。

## ■イスラエル医療団に対する支援

医療支援を行うため来日した、イスラエルの医療支援チームが円滑に活動できるようにするため、市はさまざまな支援を行いました。

イスラエル医療支援チームは、南三陸町のベイサイドアリーナ避難所に、総合病院並みの機能を持つ医療支援センターを開設。優れた医療機器を自ら持ち込み、平成23年3月21日から4月10日まで医療支援を行いました。

この国際的なプロジェクトは、イスラエルの医療支援チームが60人、外務省や国際NPOなどの支援団体約15人で構成され、市内の宿泊施設をベースキャンプにしながら、医療支援に当たりました。

市は、イスラエル医療チームが円滑に活動できるよう、医療支援チーム先遣隊との調整、医療センターの設置・運営に関する南三陸町との調整、南三陸町内の各避難所への診療バスの派遣、ベースキャンプとなった宿泊施設との調整



▲市が設置を支援したイスラエル医療センター(南三陸町ベイサイドアリーナ)



▲南三陸町の復興を支援する芸能祭(栗駒みちのく伝創館)



▲南三陸町から避難された方の体調チェック(一迫老人福祉センター)



▲南三陸町からの避難者との交流(くりでん乗車体験や、栗駒民話の会のお話)▲



## ■受け入れを行った施設

- 若柳ウエットランド交流館
- 金成温泉 金成延年閣
- 栗駒みちのく伝創館
- 花山石楠花センター
- 一迫老人福祉センター

## ■避難所を開設した期間

平成23年4月3日  
～9月13日

県・イスラエル大使館・外務省との調整、支援ボランティア団体との調整などを行いました。

イスラエル医療チームは、支援を終え帰国するに当たり、持ち込んだ医療機器をすべて南三陸町に寄贈し、医療体制復旧への大きな一歩を担いました。

## 4 避難所の提供

市内6施設に南三陸町の被災者92世帯242人(最大時)を受け入れました。

また、市では、南三陸町から避難してきた方々に対して、安心して過ごせる避難所の運営や、南三陸町への一時帰町バスの定期運行に取り組みました。

## 5 市内での交流

国立花山青少年自然の家(避難者の受け入れ状況は、資料編に掲載しています)

市内の施設に避難している南三陸町の方々に、日ごろの疲れを癒してもらおうと、平成23年7月10日、「栗原市まるごとゆったり体験」南三陸町避難者招待ツアーを開催し、市内の観光施設やイベントに招待しました。

栗駒民話の会によるお話やわらべ唄の披露、廃線になった「くりはら田園鉄道」の、乗車体験と旧駅舎や保存車両の見学、若柳地区の多田農園ではブルーベリーの摘み取り体験を行いました。

また、昼食では、栗っこ農業協同組合の提供で、もちつきが行われ、郷土料理の「ふすべもち」などが振る舞われました。

当日は、猛暑日にもかかわらず、8人の子どもたちを含む29人の方々が参加し、地域の方々と交流をしながら、栗原ならではの体験に、楽しい一日を過ごしました。